



Nomura Research Institute Group

## NEWS RELEASE

2021年12月20日  
株式会社野村総合研究所

### 野村総合研究所、「NRI 学生小論文コンテスト 2021」 受賞者発表

株式会社野村総合研究所(本社:東京都千代田区、代表取締役会長兼社長:此本 臣吾、以下「NRI」)は、「サステナブル未来予想図～こんな地球で暮らしたい・安全安心な社会のカタチ～」をテーマとした、「NRI 学生小論文コンテスト 2021」の最終審査会・表彰式を、12月20日に行いました。大学生・高校生の両部門合わせて3,043作品の応募があり、厳正なる審査の結果、大賞、優秀賞、特別審査委員賞、留学生特別賞あわせて9作品が選出されました。

審査は、(1)事務局による「予備審査」、(2)NRIグループの社員による「一次審査」、(3)NRI社員の審査委員に加え、池上彰氏(ジャーナリスト、名城大学教授、東京工業大学特命教授)・最相葉月氏(ノンフィクションライター)の2名を特別審査委員に迎えた「論文審査会」、(4)論文審査会メンバーにNRI役員を加えた「プレゼンテーション審査」の4段階で行いました。

当コンテストは今年で16回目ですが、プレゼンテーション審査は2017年度から導入し、今年で5回目となります。プレゼンテーションの様子は、後日、野村総合研究所の公式サイトに掲載予定です(<https://www.nri.com/jp/news/event/1st/cc/sustainability/contest>)。

11月18日に開催された論文審査会の様子



■入賞者および入賞論文タイトル

【大学生の部】

●大賞

中島 寛音 (なかじま ひろね) 新潟大学 医学部 3年  
ひよっこドクターのほけんしつ ～Student Doctor たちによる地域住民の健康相談の場～

●優秀賞

上原 綾乃 (うえはら あやの) 嘉悦大学 経済経営学部 2年  
新しい教育の形を世界へ

●特別審査委員賞

張 穎慧 (ちょう えいけい) 東北大学 大学院 教育学研究科 2年  
セルフサービスフードバンク ～新しい食品リサイクルのかたち～

●留学生特別賞

尹 思源 (いん しげん) 高崎経済大学 地域政策学部 3年  
金 秀玟 (きむ すみん) 高崎経済大学 地域政策学部 3年 (共著)  
留学生から見る老舗旅館に対する改善策の提案及び観光まちづくり

【高校生の部】

●大賞

平松 明華 (ひらまつ はるか) 函館白百合学園高等学校 2年  
～バン格拉デシュから始まるエシカルファッションの時代～ 縫製工房 Clothes Mom

●優秀賞

篠原 瑞希 (しのはら みずき) 本庄東高等学校 2年  
日本を第二の故郷に ～未来の人材にクラウドファンディング～

原 まりこ (はら まりこ) 埼玉県立浦和第一女子高等学校 2年  
世界の女性をつなぐ「Soap-Loop プロジェクト」ーSRHR の実現へー

●特別審査委員賞

生方 智絵 (うぶかた ちえ) 広尾学園高等学校 1年  
自然災害から笑顔を守る復旧・復興の新しいカタチ

深尾 優子 (ふかお ゆうこ) 岐阜県立岐阜高等学校 2年  
人間、う〇ちくれるってよ by 分解者

※敢闘賞・奨励賞の受賞者については、以下の URL をご参照ください。

<https://www.nri.com/jp/news/event/lst/2021/cc/sustainability/contest/result>

【ニュースリリースに関するお問い合わせ】

株式会社野村総合研究所 コーポレートコミュニケーション部 玉岡

TEL : 03-5877-7100 E-mail : kouhou@nri.co.jp

【コンテストに関するお問い合わせ】

株式会社野村総合研究所「NRI 学生小論文コンテスト 2021」事務局 伊東、本田

TEL : 03-5877-7555 E-mail : contest2021@nri.co.jp

【ご参考】

■審査委員による総評

今回は「サステナブル未来予想図～こんな地球で暮らしたい・安全安心な社会のカタチ～」というテーマを設定しました。さまざまな危険や災害から身を守って「安全」に暮らせる社会を構築していくことは、人が生きるために必要不可欠です。それだけではなく、心地よく暮らしていくためには、信頼できる人間関係を築いたり、快適な家でリラックスしたりといった「安心」も重要です。コロナ禍によってこれまでの“当たり前”が見直され、生活様式や働き方などが大きく変化し、私たちは「安全安心な社会」がどれだけ大切なのかを実感させられています。

大学生・高校生の皆さんが、サステナブルな未来に向けて、どのような安全安心な社会の未来予想図を描いてくれるか、期待感をもって審査にあたりました。集まった論文には途上国の人々、難民、高齢者、コロナ禍で経済困窮する家庭、ヤングケアラーなど、視野広くさまざまな人に対して優しい心で向き合い、真摯に、ていねいに、想像力豊かに解決策を講じているものが数多く見られ、順位をつけがたい思いも持ちました。

作品のレベルは大学生、高校生とも全体的に高く、例年より文章力も上がっていた印象です。特に留学生の論文には、留学生とは気づかないほどの日本語の文章力で書かれた優秀な作品があり、来年以降にも期待が持てました。また、高校生の論文には例年よりグローバルな視点で問題提起しているものが多く、日本や世界のあり方に関心を持つ高校生が増えていることを頼もしく思いました。

気になった点としては、コンテストの回を重ねるごとに、前にも読んだような「既視感」を覚える提案が出てくることが挙げられます。このようなことは継続に伴って避けられないのかも知れませんが、今回もその傾向を強く感じました。

また、大学生や高校生は視野広くグローバルに物事を見る目を持っている一方で、本当の意味での「リサーチリテラシー」が弱い、つまり「なぜなのか」「本当なのか」と情報や真実を追求する力が足りないのではないかと感じました。メディアでSDGsと聞いたから、「SDGs的に正しくあらねば」と考えるのではなく、自らもう一度、何が本当に求められているのかを深く調べ尽くしてみる姿勢が重要です。そのような人が育ってくれることを期待しています。

## ■各入賞論文の評価のポイント

### 【大学生の部】

#### ●大賞

ひよっこドクターのほけんしつ ～Student Doctor たちによる地域住民の健康相談の場～

中島 寛音（なかじま ひろね）さん 新潟大学 医学部3年

#### （評価のポイント）

地域医療におけるかかりつけ医の不在、医学生が全人的に患者を診る視点の欠如、独居や老々介護による高齢者の孤独などの課題意識から、「誰でも気軽に医療を受けられ、体調のことを相談できる」安全安心な社会を目指し、全国共用試験に合格した **Student Doctor** の資格を持つ医学生による「ひよっこドクターのほけんしつ」を提案。医師に必要な複眼的レンズを身につけるための試みが地域を支え、ひいては日本の医療全体の底上げにもつながる、全国的なスタンダードとなりうる実現可能性のある仕組みであり、審査委員の高い評価を集めた。内容、構成、表現など、論文としての完成度も高い。

#### ●優秀賞

新しい教育の形を世界へ

上原 綾乃（うえはら あやの）さん 嘉悦大学 経済経営学部2年

#### （評価のポイント）

南アジアの教員志望の学生が、オンラインで日本の小中高生に自国の文化、歴史、宗教、政治などについて英語で授業を行い、その経験を活かして自国の学校で教師になる「**International Teacher** 制度」を提案。理想とする、すべての人がどこにいても笑顔でいられる多様性の社会の実現のために、「人」への理解を深める必要があるという思いと、教師不足や教育の質が低いといった途上国の教育課題を掛け合わせた視点に独自性を感じる。国境を越えて双方にメリットのある、具体的な取組みが提示されている点も評価した。コロナ禍でオンラインコミュニケーションが実効的になったことも、本提案の実現性を強めている。

#### ●特別委審査委員賞

セルフサービスフードバンク ～新しい食品リサイクルのかたち～

張 穎慧（ちょう えいけい）さん 東北大学 大学院 教育学研究科2年

#### （評価のポイント）

まだ食べられるのに廃棄される食品への「もったいない」という思いを出発点に、廃棄されてしまう食品をリサイクルして食べ物に困っている人たちを支援する「セルフサービスフードバンク」を提案。コンビニでのアルバイトや米国の本格的なフードバンクでのボランティアなど、実体験を通じて得た現場での気づきを、自動販売機のように街角に設置するという新しい食品リサイクルの提案につなげている点を評価した。国内のフードバンクの普及を妨げている諸問題もよく分析している。誰でも食品を寄付して支援者になれるアイデアで、設置場所の工夫などで安全性への配慮を強化すれば実現性もあるだろう。

●留学生特別賞

留学生から見る老舗旅館に対する改善策の提案及び観光まちづくり

尹 思源 (いん しげん) さん

高崎経済大学 地域政策学部 3年

金 秀玟 (きむ すみん) さん

高崎経済大学 地域政策学部 3年 (共著)

(評価のポイント)

老舗旅館でのインターンシップの経験を通して感じた、繁忙期と閑散期の差、運営側の労働生産性の低さという課題に対して、紀南体験巡りツアーと従業員の労働生産性を向上させる仕組みづくりを提案。地方の優良な観光資源をいかに活性化させるかというテーマ設定と課題解決の流れが明瞭で、留学生とは思えない文章力と論文としての完成度が際立っている。分かりやすい論展開で、地に足のついたリアリティと説得力がある。具体的なツアースケジュールも興味深い。コロナ禍で弱った観光業界を留学生が活性化しようとする提案で、これからのインバウンドを考える上でも注目に値する。

【高校生の部】

●大賞

～バングラデシュから始まるエシカルファッションの時代～ 縫製工房 Clothes Mom

平松 明華 (ひらまつ はるか) さん

函館白百合学園高等学校 2年

(評価のポイント)

縫製工場の劣悪な労働環境が明らかとなったバングラデシュのビル崩壊事故を受けて、衣服の生産に関わる人々が誰も犠牲にならない未来を目指して、バングラデシュの女性たちによるエシカルな縫製工房「Clothes Mom」の設立を提案。現代奴隷というグローバルな問題を取り上げ、具体的な解決策を提示している。働き方や保育園の整備、エネルギー確保まで目配りし、自ら起業家のごとく主体的に会社や事業の方向性をデザインする、攻めの姿勢や熱意を高く評価した。エシカルファッションを世界標準にして Clothes Mom の衣服を流通させたいという志に、実現への期待感を強く抱いた。

●優秀賞

日本を第二の故郷に ～未来の人材にクラウドファンディング～

篠原 瑞希 (しのはら みずき) さん

本庄東高等学校 2年

(評価のポイント)

大切な故郷を捨てて難民となる人が世界に 8 千万人以上いるという現状に対して、日本としてできることはないかを考え、難民を未来の人材として見込んで企業からの投資してもらうことで成り立つ難民受け入れ施設「SMILE FACTORY」の設立を提案。難民という日本では扱いにくい世界的な問題にチャレンジし、「管理」ではなく「共に生きる」という視点から、すべての関係者にウィンウィンとなる仕組みを大胆に考案している点を評価した。やむなく祖国を離れなくてはならなかった難民にとって、SMILE FACTORY は一つの希望になると思われる。

●優秀賞

世界の女性をつなぐ「Soap-Loop プロジェクト」－SRHR の実現へー

原 まりこ（はら まりこ）さん

埼玉県立浦和第一女子高等学校 2 年

(評価のポイント)

諸外国から後れをとる日本の性教育の現状を踏まえ、誰もが生きやすい社会にするためには性の話題をタブーとする社会の意識を変えることが必要だと主張。若者が集まって性について自由に話せる場を作り、そこで作った石けんを貧困家庭に安価で販売し、売り上げを途上国の女性の健康を守る NGO に寄付する「Soap-Loop プロジェクト」を提案している。日本では活発に取り組まれている性の分野に大胆に切り込んだ勇氣、実際にカタリバを作り実践した行動力、国際的に考えていこうという問題意識とスケールの大きさを評価した。LGBTQ や男性参加へという課題を検討している点も良い。

●特別審査委員賞

自然災害から笑顔を守る復旧・復興の新しいカタチ

生方 智絵(うぶかた ちえ)さん

広尾学園高等学校 1 年

(評価のポイント)

自然災害が後を絶たない日本において、次の世代へと住み続けられる街をつくるためには、被災地の円滑で持続的な復旧・復興支援が不可欠だという思いから、災害ボランティア支援アプリ「サポいる」(被災地をサポ<sup>ル</sup>し、皆をすま<sup>い</sup>るに)を提案。文献データを上手に活用し、被災地の中長期的支援に焦点を絞り、災害後ボランティアの効率的な活用や普及に着眼した点が優れている。今ここで、どんな支援が必要か、ニーズに応じた支援が可能となるようシステムの具体的内容もよくイメージされており、説得力がある。実用化への期待感を強く抱かせる提案である。

●特別審査委員賞

人間、う〇ちくれるってよ by 分解者

深尾 優子（ふかお ゆうこ）さん

岐阜県立岐阜高等学校 2 年

(評価のポイント)

世界で 6 億 7300 万人がトイレのない生活を送っている「屋外排泄」の問題に対して、分解者を糞尿処理に利用した、水も電力も不要な「Decomposer Toilet」を提案。衛生問題、環境汚染、人権問題にもつながり、SDGs の課題の一つにも掲げられるこの問題に着眼した点に、まず独自性がある。ユーモアのあるタイトルで提起しながら、バイオトイレの方式を具体的かつ合理的に考案しようという姿勢、技術的なアプローチの模索を評価した。設置地域の生態系を壊さない分解者を使い、分解者が生息しない地域のために人工分解者の開発まで考察している点も良い。

(注：分解者とは生態学用語で、生物の排出物や死がいなどの有機物を分解する細菌、菌類などをさす)

■ 「NRI 学生小論文コンテスト 2021」の概要

1.対象	全国の大学院生、大学生、高校生
2.テーマ	<b>Share the Next Values!</b> 「サステナブル未来予想図 ～こんな地球で暮らしたい・安全安心な社会のカタチ～」
3.審査プロセス	(1) 事務局による予備審査 (2) NRI グループ社員による一次審査 (3) 論文審査委員による二次審査（論文審査） (4) 最終審査委員による最終審査（プレゼンテーション審査） ※プレゼンテーション審査以外の審査プロセスは、応募者の学校名・名前などの属性を秘匿したうえで、厳正に実施
4.論文審査委員（7名）	<b>【審査委員長】</b> 桑津浩太郎（NRI 研究理事） <b>【特別審査委員】</b> 池上彰氏（ジャーナリスト、名城大学教授、東京工業大学特命教授） 最相葉月氏（ノンフィクションライター） <b>【審査委員】</b> NRI 社員 4 名
5.最終審査委員（9名）	論文審査委員、NRI 役職員など
6.賞金	優秀作品には副賞として下記の賞金を授与 <b>【大学生の部】</b> 大賞 50 万円、 優秀賞、特別審査委員賞および留学生特別賞 25 万円、 敢闘賞 10 万円、奨励賞 5 万円 <b>【高校生の部】</b> 大賞 30 万円、優秀賞および特別審査委員賞 15 万円、 敢闘賞 6 万円、奨励賞 3 万円
7.結果発表	全ての賞を 12 月 20 日に NRI 公式サイトで発表 (敢闘賞・奨励賞以外は、最終審査会にてプレゼンテーションを実施)